

受難節 第6主日 【棕櫚の主日】

頌栄教会 聖書朗読・讃美歌（聖書本文は新共同訳を使用しています）

旧約聖書

創世記 22：9－14

9 神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪^{たきぎ}を並べ、息子イサクを縛^{しば}って祭壇^{さいだん}の薪^{たきぎ}の^{うえ}の^の上に載せた。10 そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠^{ほふ}ろうとした。

11 そのとき、天から主の御使^{みつか}いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、

12 御使^{みつか}いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神^{おそ}を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげること^おを惜し^おまなかつた。」

13 アブラハムは目を凝^こらして見回した。すると、後ろの木^{しげ}の茂みに一匹の雄羊^{お ひつじ}が角^{つの}をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊^{お ひつじ}を捕まえ、息子の代わりに焼き尽く^{ささ}す^{もの}献げ物としてささげた。

14 アブラハムはその場所をヤーウェ・イルエ（主は備えてくださる）と名付けた。そこで、人々は今日でも「主の山に、備えあり（イエラエ）」と言っている。

使徒書

ヘブライ人への手紙 10：19－25

19 それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。20 イエスは、垂れ幕^{たまく}、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。21 さらに、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司^{さいいし}がおられるのですから、22 心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心^{まごころ}から神に近づこうではありませんか。23 約束してくださったのは真実な方なので、公^{おおやけ}に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。24 互いに愛と善行^{ぜんこう}に励^{はげ}むように心がけ、25 ある人たちの習慣^なに倣^{おこた}って集会を怠^{おこた}ったりせず、むしろ励まし合ひましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。

福音書

ヨハネによる福音書 18 : 28-40

28 人々は、イエスをカイアファのところから総督官邸^{そうとくかんてい}に連れて行った。明け方であった。しかし、彼らは自分では官邸^{かんてい}に入らなかった。汚れないで過越^{けが}の食事をするためである。29 そこで、ピラトが彼らのところへ出て来て、「どういう罪でこの男を訴えるのか」と言った。

30 彼らは答えて、「この男が悪いことをしていなかったら、あなたに引き渡しはしなかったでしょう」と言った。31 ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った。32 それは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、イエスの言われた言葉が実現するためであった。33 そこで、ピラトはもう一度官邸^{かんてい}に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。34 イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」35 ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長^{どうほう きいしちやう}たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」36 イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」37 そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理^{しんり}について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」38 ピラトは言った。「真理とは何か。」

ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。39 ところで、過越祭^{すぎこしさい}にはだれか一人をあなたたちに釈放^{しゃくほう}するのが慣例^{かんれい}になっている。あのユダヤ人の王を釈放^{しゃくほう}してほしいか。」40 すると、彼らは、「その男ではない。バラバを」と大声で言い返した。バラバは強盗^{ごうとう}であった。

15

The Lord is King! lift up thy voice
Josiah Conder, 1824

礼 拝 讃 美

WARRINGTON
Ralph Harrison, in his Sacred Harmony, Vol. I, 1784

♩=96 われらの—みか—みはあめつ

ちすーべますくにぐにしま—じー

ま—よろこび—た—たえよアーメン

黙示 19:6 エレ 10:10 詩篇 79, 93

1

我らのみかみは ^{あめつち}天地すべます、
国々しまじま 喜びたたえよ。

2

みいつの光は 世界をてらせり、
大地はかしこみ み前にふるえり。

3

^{たれ}誰かはさからう み神のみわざに、
^{たれ}誰かはなみする み神のみむねを。

4

よろずの君らよ み前にひれふせ、
すべての力は み神のものなり。

5

^{あめ}天にも ^{つち}地にも み歌ぞきこゆる、
「われらの神こそ まことの神なれ」

545

讃 詠

Glory be to the Father

GLORIA PATRI
Charles Meinecke, 1782-1850

♩=50 ちちのみかみに みこにきよきみ たまにむ

かしながらの みさかえあれや としわにアーメン

♩ = 104

ガ リ ラ ヤ の か ぜ か お る あ た り — あ

ま つ み く に は ち か づ け り と の

た ま い て よ り い く ち と — せ ぞ — き

た ら せ た ま え 主 よ み く に を アーメン

(この曲をニ長調で奏く場合は、第 214 番の曲をみよ)

マル 1 : 15 マラ 2 : 6 詩篇 67 : 3-4 マタ 6 : 10 エペ 2 : 14

1

ガリラヤの風 かおるあたり、
「あまつ御国は 近づけり」と、
のたまいてより いく千歳^{ちとせ}ぞ、
きたらせたまえ、主よ、み国を。

2

たたかいの日に いこいの夜に、
みくにをしたう あつきいのり、
ささげられしは いく千度^{ちたび}ぞ、
きたらせたまえ、主よ、み国を。

3

憎み、あらそい、あとを絶ちて、
愛と平和は 四方^{よも}にあふれ、
みむね^なの成るは いずれの日ぞ、
きたらせたまえ、主よ、み国を。

543

頌 栄

AZMON

Arr. from Carl Gotthilf Gläser (1780),
by Lowell Mason, 1839

♩ = 66

主 イエスのめぐみよ ちちのあいよ

みたまのちからよ ああ—みさかえよ アーメン